

第3のITインフラの提供で選択の自由度を拡大、 俊敏なサービス立ち上げと成長フェーズのサポートを両立

プロダクトやサービスの送り手である企業（クライアント）と、受け手である生活者（カスタマー）を結び付け、人生・生活のさまざまなシーンで「まだ、ここにいる、出会い。」を提供し続けているリクルート。2012年10月の分社化以降、この中でリクルートグループ各社に対して競合優位性の高いIT・ネットマーケティング基盤を開拓し、ビジネス実装する役割を担っているのが、株式会社リクルートテクノロジーである。

リクルート各社のサービスを支えるITインフラの提供もおこなっている同社では、事業要望を受けてからサービスインまでのプロセスを迅速化するため、プライベートクラウドでのネットワーク仮想化を推進。ロードバランサ等の機能提供はBIG-IP VEを活用している。またハードウェアのBIG-IPも併設し、BIG-IP VEではCPU負荷になるSSL処理のみをここにオフロード。新規サーバのデプロイから通信要件の追加、新規のBIG-IP バーチャルサーバの追加とサーバのプールへの組み込みまでを、わずか数分で実行できる環境を実現している。



「当社ではグループ内の事業会社向けに、プライベートクラウドとパブリッククラウドの両方を提供していますが、プライベートクラウドではパブリッククラウドにはない高いセキュリティや我々インフラ部門による手厚いサポートが提供されており、グループ内で根強いニーズがあります。しかしパブリッククラウドと比べるとアジリティや柔軟性を提供できず、これを解決することが課題になっていました」

株式会社リクルートテクノロジー ITソリューション統括部 サイトリアライビリティエンジニアリング部
RAFTELグループ 兼 インフラソリューション1部 ELIXIR 2グループ シニアネットワークエンジニア 保科 弘 氏

「RAFTEL Fleet」では、これまで2週間かかっていた新規サーバのデプロイから通信要件の追加、新規のBIG-IP バーチャルサーバの追加とサーバのプールへの組み込みまでを、分単位で実行できます。これによって事業の商機を逃さないスピードを、プライベートクラウドでも実現可能になりました」

株式会社リクルートテクノロジー ITソリューション統括部 サイトリアライビリティエンジニアリング部
RLSグループ 小見山 勝 氏



背景

リクルートテクノロジーはビジネススピードの向上に貢献するため、サーバを仮想化/プール化したプライベートクラウド「RAFTEL Standard」の提供を2009年に開始。その第一世代からVIPRIONやBIG-IPを導入することで、予想外のトラフィックにも対応できる高い柔軟性と堅牢性を実現した。

その後、新規サービス立ち上げをさらに迅速化するため、パブリッククラウドへのニーズが増大。これに対応するため2011年には、グループ向けパブリッククラウド「Rクラウド」も提供開始した。新規サービスは数時間でインフラを立ち上げられる「Rクラウド」、大規模サービスは高いパフォーマンスと堅牢性を持つ「RAFTEL Standard」を活用するという使い分けを可能にしたのである。

ビジネス上の課題

「RAFTEL StandardはRクラウドにはない、高いセキュリティや我々インフラ部門による手厚いサポートが提供されており、グループ内で現在でも根強いニーズがあります」と語るのは、リクルートテクノロジーでシニアネットワークエンジニアを務める保科 弘氏。しかしパブリッククラウドと比べるとアジリティや柔軟性を提供できず、これを解決することが課題になっていたと言う。

この問題を解決するには、「RAFTEL Standard」と同様のプライベートクラウドとして、新たなセルフサービス型のインフラを用意する必要があると保科氏は判断。そのためにサーバだけではなく、ネットワークも仮想化した「RAFTEL Fleet」の構築に着手する。事業会社の担当者が管理ツール

Overview

業種

エンタープライズ

課題

- ・プライベートクラウドでのインフラ提供の俊敏性向上
- ・既存のプライベートクラウドとの親和性の確保
- ・SSL処理能力の確保

ソリューション

- ・BIG-IP Virtual Edition (VE)
- ・BIG-IP Appliance (External Crypto OffloadによるSSL処理のオフロード)
- ・BIG-IP License Manager

メリット

- ・ネットワークとロードバランサの仮想化でセルフサービス型の俊敏なデプロイが可能
- ・既存のプライベートクラウドとの親和性が高く、スイッチングコストを抑制可能
- ・SSL処理をハードウェアにオフロードすることで、処理速度を維持しながら仮想マシンの負荷を軽減

Customer Profile

株式会社リクルートテクノロジー

リクルートグループのIT&マーケティングカンパニーとして、2012年10月に設立。グループ各社の現在・将来のニーズを見据え、競合優位性の高いIT・ネットマーケティング基盤を開拓・実装することで、リクルートグループの競争優位性を構築し続けている。

を直接操作し、サーバ立ち上げからネットワークへの接続、さらにはロードバランサの設定まで可能な、より俊敏性の高いプライベートクラウドの実現が目指されたのである。

ソリューション

「RAFTEL Fleet」のネットワークの仮想化手法としては、VMware NSXによるオーバーレイ方式を採用。既存のネットワークインフラであるVLANIによるフラットなL2ネットワーク上で、仮想ネットワークを構築できるようにした。「RAFTEL Standard」でVIPRION+BIG-IPで実現されていたロードバランサ機能は、BIG-IP Virtual Edition (VE) によって仮想化。これに加えてハードウェアのBIG-IPも併用し、External Crypto OffloadによってSSL処理のオフロードを行うことで、高い処理速度と仮想マシンの負荷軽減を両立させている。さらにBIG-IQ License Managerも導入、BIG-IP VEライセンス管理の効率化も実現した。

F5製品の採用理由について保科氏は「『RAFTEL Standard』と同等レベルの機能を提供するには、F5製品の採用が最適と見立てました」と語る。その一方で、保科氏と共に「RAFTEL Fleet」の提供に携わっている小見山 勝氏は「『RAFTEL Standard』でもF5製品は高い機能性と安定性を発揮しており、性能面でも十分に満足していた

ため、これなら自分たちの要件を満たすだろうと考えていました」と述べる。

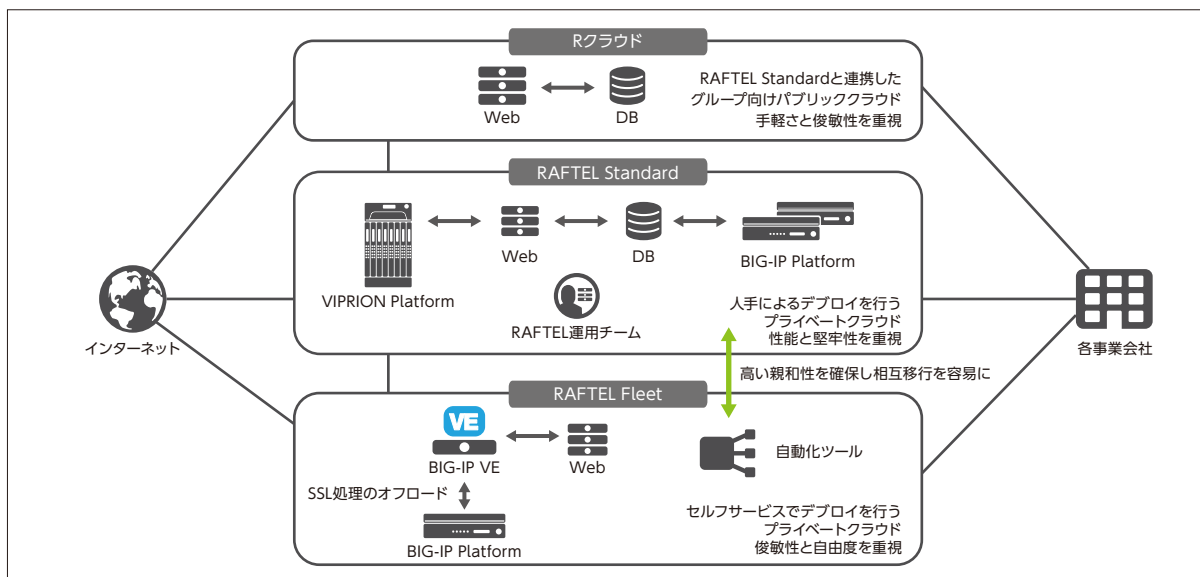
「RAFTEL Fleet」の構築は2016年10月から行われており、同年12月にはテストを開始。2017年4月から事業会社への提供が始まる予定だ。

メリット

■ネットワークのデプロイ時間を大幅に短縮
 「RAFTEL Fleet」では、「Rクラウド」と同様にセルフサービス型でシステムインフラを提供するため、「RAFTEL Standard」に比べてインフラ提供までの時間を大幅に短縮できる。「これまで2週間かかっていた作業を、分単位で実行できるようになります」と小見山氏。これによって事業の商機を逃さないスピードを、プライベートクラウドでも実現可能になったと語る。またネットワークまで仮想化したことで、リクルートテクノロジーズ内での作業負担も軽減しているという。

■既存システムからの移行も容易
 「RAFTEL Fleet」は「RAFTEL Standard」と同様のツールを利用することで、「RAFTEL Standard」との高い親和性を確保。そのためアプリケーションを、相互に移行することが容易になっている。プライベートクラウドに新たな選択肢が生まれたことで、事業展開の柔軟性はさらに高まっていくと期待されている。

■アプリケーション開発の迅速化に大きな効果
 「当初はアプリケーション開発環境としての提供がメインになります」と保科氏。「RAFTEL Fleet」で迅速にアプリケーションを開発した後、それを動かすのは「RAFTEL Fleet」本番環境または「RAFTEL Standard」本番環境、といった使い方を想定しているという。また、「RAFTEL Standard」上で動いている大規模システムの、サブシステムとして活用してもらうことも視野に入っている。「これによって将来の拡大を見据えながら、即時性のあるサービスを実現しやすくなるはずだ」。



F5ネットワークスジャパン合同会社

東京本社
 〒107-0052 東京都港区赤坂 4-15-1 赤坂ガーデンシティ 19 階
 TEL 03-5114-3210 FAX 03-5114-3201
<http://f5.com/jp>

西日本支社
 〒530-0012 大阪市北区芝田 1-1-4 阪急ターミナルビル 16 階
 TEL 06-7222-3731 FAX 06-7222-3838